

2012年11月 5日

森本 敏 防衛大臣 殿

日米共同統合実働演習の中止を求める申し入れ書

防衛省は11月5日(月)～16日(金)の間、日米共同統合演習(実働演習)について、沖縄周辺海域などで、全面非公開で行うことを明らかにしました。この演習には陸海空自衛隊3万7000人、在日米軍約1万人が参加し、九州や沖縄などで行われるといっています。

茨城の航空自衛隊百里基地では、百里基地所属の航空機及びF15戦闘機が5機程度千歳基地移動、同じく百里基地に所属するRF4偵察機が3機程度新田原基地に移動する。また航空自衛隊新田原基地所属のF4戦闘機が6機程度百里基地に移動するとしています。

実働演習は1986年度から始まり今回で11回目です。日米両政府は中国や北朝鮮の「脅威」をあおり、米軍や自衛隊の増強が「抑止力」として重要だと強調しています。しかし「抑止力」とは、そもそも相手を「攻撃するぞ」と脅かして相手を黙らせることです。そのため、相手を上回る兵器を保有することが前提です。「戦争開始を前提としている」と言っても過言ではありません。

そもそも日米共同統合演習は、ソ連崩壊後、唯一の軍事・政治・経済大国になったアメリカの世界戦略の一環として実施されたもので、いわば冷戦時代の産物です。多大の予算を浪費し危険な戦闘訓練行うことは、異常な騒音などで地元県民に大きな不安を与えるものです。

尖閣列島の領有権の問題でも、軍事力を用いた脅しによる解決でなく、平和、外交的な話し合いによって解決することが、国連憲章や国際社会の大原則です。日中間でいろいろな行き違いがあっても、話し合いのテーブルに着くことを優先する努力を行い、平和的に解決することが何よりも重要です。

私たちが野田内閣に強く要請するのは、今こそ日米安保条約中心の政治から日本国憲法に基づく政治への転換です。今回の日米共同統合演習は許し難く、怒りを持って抗議するものです。以下の項目について申し入れます。誠実に対応してください。

記

1. 「防衛」と言う名目で、実際はアメリカの戦争協力のための日米共同統合演習は、「戦争する国」への自衛隊強化です。日本国憲法と相容れないものであり、中止してください。
2. 騒音・事故の危険・生活不安など、日本国民の不安を万全の策で解消する手だてを取ってください。

以 上

米軍機来るな茨城実行委員会
百里基地反対同盟